

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	制作実習 I	古川 農 相澤 一喜 鳥羽 浩平 秋元 孝夫 大健 敦 荻原 邦昭	6単位 216時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

番組制作の基礎を4つのセクションで学び、一連の映像制作の過程を経験する。そのことにより、映像制作の過程をそれぞれのセクションを通して理解を深め、自らで映像制作できることを目指す。

#### 【講義概要】

番組はどのような過程で制作されるのか、番組に関わるスタッフはどんなスタッフがいるのか。将来、様々な番組制作に携わるため、番組制作の基礎を、制作・技術共に学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	授業ガイダンス
2	ロケ撮影 基礎実習①
3	ロケ撮影 基礎実習②
4	ロケ撮影 基礎実習③
5	ロケ撮影 基礎実習④
6	中継実習 準備
7	中継実習 本番
8	インタビュー実習 準備①
9	インタビュー実習 準備②
10	インタビュー実習 テスト撮影
11	インタビュー実習 撮影①
12	インタビュー実習 撮影②
13	インタビュー実習 編集①
14	インタビュー実習 編集②／プレビュー
15	ドラマ実習 ドラマ基礎実習
16	ドラマ実習 準備①
17	ドラマ実習 準備②
18	ドラマ実習 準備③
19	ドラマ実習 テスト撮影②
20	ドラマ実習 テスト撮影③
21	ドラマ実習 撮影①
22	ドラマ実習 撮影②
23	ドラマ実習 撮影③
24	ドラマ実習 編集①
25	ドラマ実習 編集②
26	ドラマ実習 編集③／プレビュー
27	スタジオ収録 基礎実習①
28	スタジオ収録 基礎実習②
29	スタジオ収録 基礎実習③
30	スタジオ収録 基礎実習④
31	スタジオ収録実習 企画／準備①
32	スタジオ収録実習 準備②
33	スタジオ収録実習 準備③
34	スタジオ収録実習 RH①
35	スタジオ収録実習 RH②
36	スタジオ収録実習 本番

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。レポート、授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業形式は実習を基本とし、基礎とある授業では、4つのセクション(演出・制作、撮影、照明、音声)に分かれ全てのセクションを順番に学修する。インタビューやドラマなどはそれぞれの制作を一連の流れで学習していく。担当教員は各セクションを次のように担当する。演出・制作…鳥羽 浩平、相澤 一喜 撮影…荻原 邦昭、古川 農 照明…大健 敦 音声…秋元 孝夫/現役フリーランスエンジニア、ライブ/コンサート収録、PA、スタジオ録音等をこなす。職務経歴30年以上の経験で、業界で必要な知識と理論を伝える。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	演出 I	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

近代芸術の最後尾に位置する映像芸術・映像エンターテインメント。それらにおける至上目的である「面白さ」とは、いかなる価値なのか？「面白さ」はいかなる時に、いかなる条件において発生するのか？この授業では1年間を通して、映像制作における「企画立案～演出」という過程を体験することを通じ、「面白さ」を目的とした作品作りの基礎を理解・体得することを目標とする。

#### 【講義概要】

前期は、映像によるフィクション作品(劇映画・ドラマ)の制作過程において、その全過程の指針となるべき「企画性＝アイデア」の重要性と、その具体化作業としての「演出」の基礎とを学ぶ。本授業では主な課題として、月曜実習短編ドラマ撮影用の企画・脚本の作成が課される。

回	授業計画及び学習内容
1	【授業ガイダンス】映像制作過程(プリプロ・撮影現場・ポストプロ)における「企画作成」と「演出」について
2	メタ価値としての「面白さ」について。参考上映作品(映画)の「企画性＝アイデア」分析を通じて考察
3	【グループ学習】各自がこれまでに会ったもっとも面白い映画作品について、その企画性を分析・プレゼン1
4	【グループ学習】各自がこれまでに会ったもっとも面白い映画作品について、その企画性を分析・プレゼン2
5	【企画の基礎1】制作条件を逆手に取る方法。月曜実習短編ドラマ撮影用「企画課題」の解説
6	短編ドラマ撮影用企画プレゼン1
7	短編ドラマ撮影用企画プレゼン2
8	短編ドラマ撮影用企画プレゼン3
9	短編ドラマ撮影用企画プレゼン4
10	短編ドラマ撮影用企画、個別指導1
11	短編ドラマ撮影用企画、個別指導2
12	短編ドラマ撮影用企画、個別指導3
13	短編ドラマ撮影用企画、個別指導4
14	短編ドラマ撮影用企画、個別指導5
15	短編ドラマ撮影用企画、個別指導6
16	【脚本の基礎】劇映画・ドラマ脚本の書式(柱・ト書き・科白)～フィクションにおける勇気＝反自然主義について～
17	【演出の基礎1】段取り決め＝役者の立ち位置と動線。短編ドラマ撮影用企画、選定結果発表
18	小論文テスト対策～自分の意図を言語化する際に陥ってはいけない傾向について～
19	【前期末テスト】小論文
20	小論文テスト解説
21	【演出の基礎2】演出効果とは？その実例1(望遠/広角レンズ解説)
22	【撮影実習】～めまいショットを撮影する～①
23	【撮影実習】～めまいショットを撮影する～②
24	【演出の基礎3】第四の壁について。撮影実習成果の検討
25	【企画性と演出の関係について1】二種類のクライマックス。参考上映(ドラマ)
26	【企画性と演出の関係について2】四象限図式による発想法。参考上映(ドラマ)
27	【演出の基礎4】演出効果とは？その実例2(アイキャッチ) 参考上映(ドラマ)
28	【演出の基礎5】演出効果とは？発展編(非効果的効果＝フェティシズムについて) 参考上映(ドラマ)
29	【企画の基礎2】TVドキュメンタリーの現場における企画開発。卒業制作実習用「取材もの企画」解説・班分け
30	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン1
31	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン2
32	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン3
33	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン4
34	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン5
35	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン6
36	年間授業テーマ総括

#### 【成績評価方法】

レポート課題1・2(各15点)。短編ドラマ企画書(20点)。短編ドラマ脚本(20点)。前期末テスト(30点)の総計100点満点で採点する。授業への参加意欲・セッティング・片付けへの貢献を総計10点程度、プラスアルファの加点要素として考慮する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネスソフト	鎌倉 規匠	2単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

ワード・エクセル・パワーポイントに重点を置き、学科及び卒業後も必要とされる事務及び制作に欠かせない作業を踏まえての基本操作の習得を目的とする。

#### 【講義概要】

座学が基本。教科書に沿って説明し、その他必要な操作は課題等で補いながらワード・エクセル・パワーポイントに於ける基本操作を習得する。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	キーボード操作
3	ブラインドタッチ・タイピング
4	Word基本操作・保存
5	文字入力(和文・英文)・基本的なショートカットキーの利用
6	特殊文字・フォントについて・ページレイアウト
7	ビジネス文書の形式・マナー・記以上文・時節・あいさつ文
8	ビジネス文書制作 表の挿入・削除・結合その他、装飾
9	区切り・セクション区切りの利用・縦書き・テキストボックス利用
10	ワードアート・図形の挿入・ドロップキャップの利用
11	チラシ制作課題
12	復習課題①
13	Excelの概要・基本操作①文字・数値入力
14	基本操作②オートフィルブックとシート
15	表の作成入力
16	関数①
17	関数②
18	フィルター・RANK・検索・置換
19	行・列の挿入・削除表示非表示
20	表データを利用したグラフ作成・グラフ概要説明・データの追加
21	グラフ要素の追加・レイアウト・グラフスタイルの変更・移動。スパークライン
22	復習課題②
23	パワーポイント概要説明
24	スライド制作・テーマ
25	ワードアート・画像・音楽挿入
26	アニメーション・画像切り替え
27	スライドショーとは？ヘッダーフッター・リハーサル・保存方法
28	パワーポイント動画作成①
29	パワーポイント動画作成②
30	パワーポイント動画作成③
31	パワーポイント動画作成④
32	パワーポイント動画発表①
33	パワーポイント動画発表②
34	パワーポイント動画発表③
35	パワーポイント動画発表④
36	年間授業総括

#### 【成績評価方法】

成績は、課題、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。授業全体を100点満点として採点する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

座学を基本とし、課題などを通して積極的にPCにおける苦手意識を実践でも活かすことの出来るスキルに変える。MOS資格を保持。座学ではあるが、一方的にならないよう、生徒とのコミュニケーションを計りながら、個々の疑問点を一緒に解決出来るように。更には生徒同士でお互いに伸ばし合えるような全員総ブラッシュアップをモットーとしている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	照明	柳戸 勲	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

放送業界のスタッフの一員として照明および裏方(スタッフ)の心構え、良識ある人間性の確立を目指す。スタジオ、イベント等に於ける照明の理論や基礎知識を学び、業界人としての自覚を促す。

#### 【講義概要】

「学び」「考え」「行動」を最大のテーマとして捉え、社会性豊かな学生を育成する。スタッフとしてのチームプレー、チームワークの必要性を理解し作品制作の実務を修得する。

回	授業計画及び学習内容
1	照明とは？光について、色との違い
2	上演芸術の歴史について
3	劇場機構と照明設備について①
4	劇場機構と照明設備について②
5	劇場機構と照明設備について③
6	テレビスタジオの機構と設備について①
7	テレビスタジオの機構と設備について②
8	テレビスタジオの機構と設備について③
9	テレビ照明の特徴と技法、色温度
10	テレビ用語について
11	3点照明について
12	スタジオに於ける照明の仕事
13	ロケーションに於ける照明の仕事
14	照明機器、電球、フィルターについて
15	電気工学について① オームの法則、電力計算
16	電気工学について② 絶縁体について
17	光について① 照明工学、ルクス・カンデラ等
18	光について② 太陽光のスペクトル
19	前期末試験 傾向と対策
20	前期末試験 解説
21	TV用語の解説(配布資料あり)
22	舞台美術、演出、照明についての用語解説
23	安全対策について
24	事故防止につながる基礎
25	TVスタッフの役割について① P、D、ADの仕事と役割
26	TVスタッフの役割について② CA、L、AD、TK等の仕事と役割
27	CMグラフィティについて
28	TVの仕事、スタジオ・ロケーションにおけるドラマの照明
29	音楽番組の照明、中継、報道、CMの照明
30	スタジオにて照明実習① レバトンを使って三点照明をモニターを通して見る
31	スタジオにて照明実習② スタンドに灯体を乗せ、光の三原色・エフェクトライトを見る
32	ドラマにおけるアイライト(強調する明かり)の説明
33	色彩について 加法混色・減法混色について
34	後期末試験 傾向と対策
35	後期末試験 解説
36	評価と一年間のまとめ

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

「舞台TV照明」基礎編を中心とした講義形式を基本とする。経験と実績に基づいて作成した資料を配布し、説明。約4時間を使い、スタジオにて機材を使い照明実習。現役の、舞台(バレエ、オペラ、語り、シャンソン等)を中心としている照明家。体験を基に広くスタッフ養成への授業を展開する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	音響	秋元 孝夫	4単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

テレビ、放送、ポストプロダクション業界で必要な音声、音響に関する知識、理論を身につける。

**【講義概要】**

実際に聞こえる音(心理音響)～電気音響(アナログ信号)～デジタル分野、無線電波まで音に関する基礎的な知識を広く学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	音について
3	音の三要素
4	音波、波長、波形
5	音の聞こえ方、感じ方、人の聴覚特性
6	音声信号＝電気信号
7	バランス回路、伝送、位相について
8	電気を音にする、スピーカーのしくみ
9	スピーカーシステム
10	音を電気に変える、マイクの特性、種類、用途
11	ダイナミックマイクの仕組み、特性、用途
12	コンデンサマイクのしくみ、特性、用途
13	音の大きさ、デシベル、
14	マイクレベル、ラインレベル、スピーカーレベル
15	PAシステムについて
16	増幅回路、各種アンプ、その必要性
17	前期末試験 傾向と対策
18	前期末試験 解説
19	前期総括/講評
20	インピーダンス
21	インピーダンスの整合
22	音声分配、分岐システム、ADA、スプリッタ
23	中継、収録システム
24	スタジオマルチトラック録音
25	ダイナミクスエフェクトについて、コンプ、リミッタ、ゲート、エキスパンダ
26	サラウンドシステム
27	デジタルオーディオ
28	デジタルオーディオ伝送、記録
29	デジタルオーディオデータ、ファイル
30	FPU/ワイヤレスシステム
31	同期、シンクロナイゼーション
32	MAについて
33	MAの概念と作業の進め方
34	後期末試験 傾向と対策
35	後期末試験 解説
36	後期総括/講評

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

基本的に講義形式、第一録音スタジオ等にて一部実演あり。担当講師は現役フリーランスエンジニア、ライブ/コンサート収録、PA、スタジオ録音等をこなす。職務経歴30年以上の経験で、業界で必要な知識と理論を伝える。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	放送技術 I	青沼 俊雄	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

①映像・音声・照明などの色々な電子・電気機器や、ケーブル・コネクタ・電池などの機材に携わる(設置・接続・操作)場合の機器に対するアレルギー的な感覚をできるだけ排除し、違和感なく対応(其々の機器が最善な状態を維持し、少々のトラブルが発生しても、すみやかに対応)できるように、つまりメカトロニクスに強いソフトエンジニアになれるよう、電気の基本的な知識が身に付くことを目標とする。

②特に強電(電力系)は電気の基礎が出来ていないと、非常に危険(感電・漏電・加熱・火災)を伴うので、これらも認識出来るようにしたい。

#### 【講義概要】

①前期は、電気ので、から始まり、電圧・電流・抵抗・直流・交流・オームの法則・交流と磁気作用・フレミングの法則・位相・リアクタンス・インピーダンス・フィルタといった基礎的な内容を行う。応用分野は時代に応じて進化していくが、それらの土台となっているのが電気の基礎なので、大事である。

②電気は目に見えないので分かり難い、よってできるだけ色々な教材を持ち込み、具体的に如何に分かり易く説明するか、を常に考えながら進めたい。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	電気とは何か① 電気の発見、電気の正体
3	電気とは何か② 電圧・電流・抵抗・導体と不導体
4	電気回路の基礎① 直流と交流
5	電気回路の基礎② 最も簡単な電気回路、オームの法則
6	電気回路の基礎③ 抵抗の直・並列接続、分圧と分流
7	電気回路の基礎④ 電力
8	交流と磁気作用① 電気と磁気、フレミングの法則
9	交流と磁気作用② スピーカとマイクロホン、トランス
10	電子部品の基礎 抵抗、コンデンサ、コイル
11	交流回路における L・C・R の電氣的性質① 位相
12	交流回路における L・C・R の電氣的性質① リアクタンス、インピーダンス
13	LCR フィルタ① LPF、HPF、BPF
14	LCR フィルタ② フィルタの応用例
15	共振回路 直列・並列共振回路、同調回路
16	前期末テスト 傾向と対策
17	前期末テスト 答案返却解説
18	前期総括/講評
19	電源回路① 最も簡単な電源回路
20	電源回路② 安定化電源(レギュレータ)回路
21	半導体の基礎① ダイオード
22	半導体の基礎② トランジスタと増幅の概念
23	増幅器① 増幅器の基本
24	増幅器② OPアンプを含めた応用の一例
25	増幅器③ デンベルについて
26	発振回路① 発振動作(発振現象・発振条件)
27	発振回路② 発振回路の種類
28	機器間の接続① 電源と負荷
29	機器間の接続② インピーダンス整合
30	電波① 電波の発生、電波の伝わり方
31	電波② AM・FM・PCM・デジタル変調
32	地上デジタルテレビジョン放送の伝送方式
33	テレビ放送回線の伝送システムの概要
34	後期末テスト 傾向と対策
35	後期末テスト 答案返却解説 & 不合格者対応
36	後期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

毎回プリントを配布し、プリントには所々多数空白があり其れを埋めさせ、解答・説明を行う。担当教員は、ラジオ・テレビジョン受信機・レーダー・無線機器などの修理技術、学校放送設備の設置工事などの実務経験あり。また、学士・職業訓練指導員免許・高等学校教諭免許・家庭電気一級修理技士・電気工事士などの資格有り。音響映像系の過去担当学科はテレビ技術科・放送技術科・テレビ放送工学科・音響工学科を担当。本人の専門は、電気の基礎・電子回路・音響機器・室内音響・無線通信工学・計測技術。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタル画像 I	小泉 みのり	4単位 144時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

パソコンを使って、主にAdobe社ソフト(Photoshop・AfterEffects)を使いコンピューターグラフィックの基礎を学んでいく。ゼロから作るCGから写真画像を操作して作るCGまで学んでいく。初めは静止画からはいり、合成ムービーまで制作する。

#### 【講義概要】

映像サイズ、合成、編集など 制作実習と関連。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre)
3	Photoshop基本操作① ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
4	Photoshop ファイル操作と拡張子・複数ファイルの扱い・選択範囲 制作の流れ
5	Photoshop写真加工 トリミング・修復ブラシ・コピースタンプ・特定の色の色調補正・フィルター
6	Photoshop写真合成① レイヤー・切抜き
7	Photoshop写真合成② パペットワーブ・レイヤーマスク
8	Photoshopロゴマーク作り レイヤースタイル・クリッピングマスク・グラデーション
9	Photoshopポストカード作り① 画像操作・文字・スマートオブジェクト・描画モード・変形
10	Photoshopポストカード作り② シェイプで地図作成・調整レイヤー色 RGBとCMYKの違い
11	Photoshop中間制作 CD/DVDジャケット制作
12	AE基本① ロボットを動かそう① トランスフォーム(アンカーポイント・位置・回転・スケール・不透明度)・キーフレーム・リンク
13	AE基本② ロボットを動かそう② エフェクト・レンダリング
14	Photoshopロボット制作① レイヤースタイル
15	Photoshopロボット制作② オリジナルキャラクター制作
16	AE期末制作 オリジナルキャラクターを動かそう①
17	AE期末制作 オリジナルキャラクターを動かそう②
18	前期総括/講評
19	Photoshop パスの描き方・ファイルパス・タイトル・音付け
20	Photoshop クイックマスクとレイヤーマスク
21	Photoshop ツールレッスン(レッタチ)
22	Photoshop ツールレッスン(ブラシの定義・パターンの定義)
23	Photoshop グラデーションマップ・版ずれ効果
24	Photoshop スニーカーデザイン 透明をロック・レイヤーマスク
25	中間制作 Photoshop スニーカーデザイン①
26	中間制作 Photoshop スニーカーデザイン②
27	Photoshop 汗と涙の作成
28	Photoshop レイヤーマスク(応用1)
29	Photoshop レイヤーマスク(応用2)
30	Photoshop 昼の画像を夕方にする
31	Photoshop ブラシのカスタマイズ
32	雨・雪の作成 オブジェクト発光 トラックマット
33	期末制作 課題制作①
34	期末制作 課題制作②
35	期末制作 課題制作③
36	後期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。中間・期末制作の提出・完成度/授業の理解度によって評価。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

PC実習が基本。静止画加工、合成、動画編集までステップを踏み幅広く知識をつけていく。担当教員は、CM、PV、イベント、テレビ、アニメ、映画祭のOPCG等、数々の作品でマルチに活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ノンリニア編集	小泉 みのり	4単位 144時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

主にAdobe社ソフト(Premiereを使って)ノンリニア編集の基本から様々な編集と書き出しまで1人で操作出来ることを目的とし、コンピュータグラフィックスの可能性を知ってもらう。  
また、映像表現について十分理解することを達成目標とする。

#### 【講義概要】

映像サイズ、合成、編集など 制作実習と関連。  
指定の提出(中間制作・期末制作)により、内容の理解度を確認するので必ず提出すること。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre)
3	Premiere 基本操作①ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
4	Premiere 編集の準備・制作の流れ①読み込み・編集・書き出し
5	Premiere 編集の準備・制作の流れ②タイトル・音付け・エンドロール
6	Premiere 操作画面と編集の基本(プロジェクトの作成/シーケンスの作成) クリップの編集
7	Premiere イメージムービー作成①トリミング・ツール・色彩表現
8	Premiere イメージムービー作成②サブクリップ・インサート・上書き・マーカー・トランジション
9	Premiere 同期・マルチカメラ編集
10	Premiere ピクチャーインピクチャー・文字入力
11	Premiere 中間制作①
12	Premiere 中間制作②
13	Premiere 文字入力～テキストに枠を付ける～ トランジションの設定カスタマイズ
14	Premiere マスク&トラック機能 エンドロール①
15	Premiere 映画の予告編(30秒)
16	期末制作① Premiere映画の予告編(15秒)
17	期末制作② Premiere映画の予告編(15秒)
18	前期総括/講評
19	Premiere Psd素材の読み込み・ファイルパス・SE
20	Premiere 色調補正・モノクロ・特定色の調整・ホワイトバランス エンドロール②
21	Premiere タイトルのカスタマイズ・ロール・クロール・レガシータイトル・書き出し
22	Premiere BGMの調整・画面転換の特殊効果
23	Premiere ぼかし処理(トラッキング)・手振れ補正
24	AfterEffects 基本①ワークフロー・画面構成・環境設定・プレビュー
25	中間制作(季節のムービー)①
26	中間制作(季節のムービー)②
27	Premiere グリーンバック合成①AfterEffects テキストアニメーションの作成
28	Premiere グリーンバック合成②AfterEffects シェイプ・マスクを利用したアニメーションの作成
29	Premiere ストップモーションと文字入力AfterEffects レイヤー・エフェクトを活用する
30	Premiere フォーマットに書き出し
31	Premiere 曲に合わせた編集
32	期末制作 課題制作①
33	期末制作 課題制作②
34	期末制作 自由制作①
35	期末制作 自由制作②
36	前期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。中間・期末制作の提出・完成度/授業の理解度によって評価。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

PC実習が基本。静止画加工、合成、動画編集までステップを踏み幅広く知識をつけていく。担当教員は、CM、PV、イベント、テレビ、アニメ、映画祭のOPCG等、数々の作品でマルチに活躍。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	映像技法	小谷 忠典	2単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

物語性を持った映像作品を少人数で製作する。企画、シナリオ、演出、撮影、編集までの行程を学習することで映像制作についての総合的な技法を高める。

**【講義概要】**

「印象的な記憶の映像化」をテーマに、かけがえのない〈私〉の記憶の映像化を、はじめての撮影実習として各自が試みる。また相互の協働を通じて利他を知り、自己の客観視を目指す。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	企画作成①
3	企画作成②
4	企画作成③
5	企画作成④
6	企画発表①
7	企画発表②
8	グループ編成
9	撮影実習①
10	撮影実習②
11	撮影実習③
12	撮影実習④
13	撮影実習⑤
14	撮影実習⑥
15	撮影実習⑦
16	撮影実習⑧
17	撮影実習⑨
18	撮影実習⑩
19	撮影実習⑪
20	撮影実習⑫
21	撮影実習⑬
22	撮影実習⑭
23	撮影実習⑮
24	撮影実習⑯
25	撮影実習⑰
26	撮影実習⑱
27	編集実習①
28	編集実習②
29	編集実習③
30	編集実習④
31	編集実習⑤
32	編集実習⑥
33	編集実習⑦
34	編集実習⑧
35	編集実習⑨
36	作品プレビュー／講評

**【成績評価方法】**

講義全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲、また成果物としての作品から成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

この授業では、「自学・自立・自由」を追求し、表現行為に伴った技術向上のための実践を行います。自ら学び、自らの力で立ち、自らを由とする。担当教員は、映画監督。マルセイユ国際映画祭、釜山国際映画祭など、これまで20か国以上の国際映画祭で作品が上映されている。武蔵野大学客員教授。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	相澤 一喜	2単位 36時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

社会人としてのビジネススキルと一般教養を身につける事を目標とする。また、就職活動に向け、就職活動に必要な知識も身につけていく。

**【講義概要】**

基本的に座学を基本とし、社会人として必要な知識やマナーを学ぶ。また、映像制作においてチームで働くことが多くなるため、チームで働いていくときのルールやマナーも学んでいく。  
チームワークを養うために実践的な内容も取り入れてゆく。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	一般常識テスト①
3	敬語の使い方①
4	敬語の使い方②
5	一般常識テスト②
6	メールの書き方
7	電話の掛け方
8	一般常識テスト③
9	組織に必要なルールとマナー①
10	組織に必要なルールとマナー②
11	一般常識テスト④
12	チームで働くとは①
13	チームで働くとは②
14	一般常識テスト⑤
15	チームワークを養う I ①
16	チームワークを養う I ②
17	映像業界における就職活動①
18	映像業界における就職活動②
19	一般常識テスト⑥
20	就職ガイダンス①
21	就職ガイダンス②
22	就職ガイダンス③
23	就職ガイダンス④
24	一般常識テスト⑦
25	履歴書の書き方①
26	履歴書の書き方②
27	一般常識テスト⑧
28	履歴書の書き方③
29	履歴書の書き方④
30	一般常識テスト⑨
31	次年度に向けて① 先輩としての心構え
32	次年度に向けて② 後輩とのチーム作り
33	校内企業説明会①
34	校内企業説明会②
35	校内企業説明会③
36	総評

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

授業形式は講義を基本とする。担当教員は、アシスタントディレクター、Web送出オペレーター、編集オペレーターなどの実務経験があり、その経験を活かし社会人としての基礎を教えていく。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	古川 農	2単位 36時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

就職指導及び社会人としてのビジネススキルと一般教養を身につける事を目標とする。

**【講義概要】**

一般常識テスト、SPIテスト、グループワーク、個人面談、就職指導、業界理解、情報共有など。

回	授業計画及び学習内容
1	1年振り返り/2年ガイダンス
2	一般常識テスト①
3	就職活動の流れ確認/企業調査・業界研究/情報共有
4	就職用提出書類について/企業調査・業界研究/情報共有
5	エントリーシートの書き方/企業調査・業界研究/情報共有
6	SPIテスト①
7	自己PRシートの書き方/企業調査・業界研究/情報共有
8	就職試験(面接)でのポイント・ルール①/企業調査・業界研究/情報共有
9	就職試験(面接)でのポイント・ルール②/企業調査・業界研究/情報共有
10	一般常識テスト②
11	企業調査・業界研究/情報共有/個人面談
12	企業調査・業界研究/情報共有/個人面談
13	就職活動報告・提出書類について/情報共有/個人面談
14	SPIテスト②
15	情報共有/グループワーク
16	情報共有/グループワーク
17	情報共有/グループワーク
18	一般常識テスト③
19	テクノス祭準備/情報共有
20	テクノス祭準備/情報共有
21	テクノス祭準備/情報共有
22	SPIテスト③
23	情報共有/個人面談
24	情報共有/個人面談
25	情報共有/個人面談
26	一般常識テスト④
27	情報共有/グループワーク
28	情報共有/グループワーク
29	情報共有/グループワーク
30	テクノス展準備/情報共有
31	テクノス展準備/情報共有
32	テクノス展準備/情報共有
33	テクノス展準備/情報共有
34	テクノス展準備/情報共有
35	テクノス展準備/情報共有
36	テクノス展準備/情報共有

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

基本講義形式とし、学校行事などの時期により、学生によるミーティングも行う。

担当教員は放送芸術科の専任教員。

映像制作会社で撮影技術スタッフを経験後、フリーのカメラマンとして活動しながら、本校で講師としても活動していた。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	制作実習Ⅱ	荻原 邦昭 小谷 忠典 古川 農 相澤 一喜	15単位 540時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

1年次に学んだ映像制作の基礎を生かし、企画～撮影～編集～納品という制作の一連の流れを学生主動で行う。

他学科・地域・企業・自治体への取材や撮影を積極的に実習に取り入れ、作品制作を行う事で主体性・コミュニケーション能力・知識・技術を身に付ける。また、作品を外部へ発信することで、責任感を与え、質の高い作品制作を行う事を目標とする。

#### 【講義概要】

前期は近隣地域への取材を行い、ドキュメンタリー作品を制作する。

後期はジャンルを問わず、複数の作品を制作する。

演出・制作・撮影・音声・照明・編集などの希望職種に分かれ、企画～撮影～編集～納品を4月～9月(前期)

10月～2月(後期)までのスケジュールで行う。

回	授業計画及び学習内容	
1	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材①
2	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材②
3	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材③
4	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材④
5	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材⑤
6	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材⑥
7	【プロダクション】	撮影①
8	【プロダクション】	撮影②
9	【プロダクション】	撮影③
10	【プロダクション】	撮影④
11	【プロダクション】	撮影⑤
12	【プロダクション】	撮影⑥
13	【ポストプロダクション】	編集①
14	【ポストプロダクション】	編集②
15	【ポストプロダクション】	編集③
16	【ポストプロダクション】	編集④(試写)
17	【ポストプロダクション】	編集⑤
18	【ポストプロダクション】	編集⑥(完パケ・納品)
19	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備①
20	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備②
21	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備③
22	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備④
23	【プロダクション】	撮影①
24	【プロダクション】	撮影②
25	【プロダクション】	撮影③
26	【プロダクション】	撮影④
27	【プロダクション】	撮影⑤
28	【プロダクション】	撮影⑥
29	【プロダクション】	撮影⑦
30	【プロダクション】	撮影⑧
31	【プロダクション】【ポストプロダクション】	撮影⑨/編集①
32	【プロダクション】【ポストプロダクション】	撮影⑩/編集②
33	【ポストプロダクション】	編集③
34	【ポストプロダクション】	編集④(試写)
35	【ポストプロダクション】	編集⑤
36	【ポストプロダクション】	編集⑥(完パケ・納品)

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席率及び作品の完成度、スタッフとしての主体性、協調性などを換算し合計点数で成績評価を行う。

成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。

S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

通年で複数の映像作品制作を実践的に行い、映像スタッフとして必要なスキルを身に付ける。スケジュールは、内容・進行状況により変動する事がある。講師・教員のバックアップの元行う、学生の主体的な学びを特徴とする。担当教員は各セッションを次のように担当する。

演出・制作…小谷 忠典(講師/映画監督) 相澤 一喜(教員) 技術…荻原 邦昭(講師/撮影技師) 古川 農(教員)

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	演出Ⅱ	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

映像作品の創作・制作活動は、個人の営みである以上に集団制作であるという傾向があり、とりわけ商業映像の現場においてはその傾向は必須の条件である。そして、そこにおける「創造性」は一部の企画者やディレクターだけが担うものではなく、現場スタッフ全てが関与すべきものである。自分が携わる映像作品に「創造的」に関わることが出来ないスタッフは、居場所を失うことになってしまうだろう。この授業では「創造的」であることは如何にして可能なのか？をテーマとし、映像作品制作に「創造的」に関わる方法の理解・体得を通年の目標とする。

#### 【講義概要】

「企画制作」の授業と連動して行う。

映像によるフィクション作品（劇映画・ドラマ）を主な具体例とし、映像制作過程の指針である「演出」についての概論を学ぶ。前期は課題として、卒業制作実習用の企画開発・脚本・構成の作成を課する。後期は課題として、通年授業の習得度を研究発表の形でプレゼンテーションすることを課する。

回	授業計画及び学習内容
1	【映像メディア論】映像業界を志すに当たって知っておくべきこと(放送法)
2	【映像メディア論】映像業界を志すに当たって知っておくべきこと(電波事業)
3	【企画性と演出を結びつける方法】モチーフについて1(脚本からモチーフを抽出する)
4	【企画性と演出を結びつける方法】モチーフについて2(モチーフを生かした演出・撮影)
5	【演出の基礎・中級編1】演劇的な会話劇・会話シーンを、映像的に面白く撮影する工夫
6	【演出の基礎・中級編2】撮影技法としてのイマジナリーラインを演出に生かす方法
7	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
8	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
9	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
10	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
11	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
12	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
13	【演出の基礎・中級編3】良い演技を引き出す方法(「やりやすさ」と「優れた」演技の違いについて)。
14	【演出の基礎・中級編4】演出との関係における撮影・照明・録音の工夫
15	【演出の基礎・中級編5】パンショットとドリーショットの選択(技術スタッフのシャドーワーク)
16	【撮影実習】～ワンシーン＝ワンカット撮影～
17	【脚本と演出の関係1】「優れた脚本の四条件」。撮影実習成果の検討
18	【脚本と演出の関係2】演出プランを構築する方法1(ハリウッドメソッド)
19	【脚本と演出の関係3】演出プランを構築する方法2(グレマスの行為項モデル)
20	【脚本と演出の関係4】演出プランを構築する方法3(二つのプロットライン)
21	【グループ学習】A班研究発表
22	【グループ学習】A班研究発表
23	【グループ学習】A班研究発表
24	【グループ学習】B班研究発表
25	【グループ学習】B班研究発表
26	【グループ学習】A班研究発表
27	【グループ学習】A班研究発表
28	【グループ学習】B班研究発表
29	【グループ学習】B班研究発表
30	【グループ学習】C班研究発表
31	【グループ学習】C班研究発表
32	【グループ学習】D班研究発表
33	【グループ学習】D班研究発表
34	【グループ学習】E班研究発表
35	【グループ学習】E班研究発表
36	【企画と演出・実践編】MCU等々、映像フィクションの最前線が直面している問題意識を共有する

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。授業内レポート、ドラマ脚本または企画もの構成、授業への参加意欲を換算し、100点満点で採点する。(前期)授業内レポート、研究発表、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。(後期)成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	企画制作	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

映像作品の創作・制作活動は、個人の営みである以上に集団制作であるという傾向があり、とりわけ商業映像の現場においてはその傾向は必須の条件である。そして、そこにおける「創造性」は一部の企画者やディレクターだけが担うものではなく、現場スタッフ全てが関与すべきものである。自分が携わる映像作品に「創造的」に関わることが出来ないスタッフは、居場所を失うことになってしまうだろう。この授業では「創造的」であることは如何にして可能なのか？をテーマとし、映像作品制作に「創造的」に関わる方法の理解・体得を通年の目標とする。

#### 【講義概要】

「演出Ⅱ」の授業と連動して行う。

映像によるフィクション作品（劇映画・ドラマ）を主な具体例とし、映像制作過程の指針である「企画開発」についての概論を学ぶ。前期は課題として、卒業制作実習用の企画開発・脚本・構成の作成を課する。後期は課題として、通年授業の習得度を研究発表の形でプレゼンテーションすることを課する。

回	授業計画及び学習内容
1	【授業ガイダンス】 年間授業テーマの解説。卒業制作実習用「取材もの企画」準備
2	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
3	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
4	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
5	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発1（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
6	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発2（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
7	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発3（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
8	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発4（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
9	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発5（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
10	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発6（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
11	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
12	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
13	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
14	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
15	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
16	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
17	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
18	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
19	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
20	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
21	【グループ学習】 A班研究発表
22	【グループ学習】 A班研究発表
23	【グループ学習】 A班研究発表
24	【グループ学習】 B班研究発表
25	【グループ学習】 B班研究発表
26	【グループ学習】 A班研究発表
27	【グループ学習】 A班研究発表
28	【グループ学習】 B班研究発表
29	【グループ学習】 B班研究発表
30	【グループ学習】 C班研究発表
31	【グループ学習】 C班研究発表
32	【グループ学習】 D班研究発表
33	【グループ学習】 D班研究発表
34	【グループ学習】 E班研究発表
35	【グループ学習】 E班研究発表
36	【企画と演出・実践編】 MCU 等々、映像フィクションの最前線が直面している問題意識を共有する

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。企画書第1稿、企画書第2稿、ドラマ脚本または企画もの構成、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。（前期）授業内レポート、研究発表、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。（後期）成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタル画像Ⅱ	小泉 みのり	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

テレビ制作の基礎知識、全般。デジタル放送の移り変わりから、利点 問題点などを理解していく。技術的な事から デザインをするためのツールの特徴を理解させていく。テレビ用の画面デザインをする際に必要と思われる知識や項目を パソコンでの対応方法とともに説明していく。また、近年メディアの多様化、移り変わりへの対応策など考案できる人材を育てる。

#### 【講義概要】

テレビ放送の基礎知識から入り、文字テロップのデザイン 色のことや 地上デジタル放送への移行。撮影基礎知識から3D映像の原理など 順をおって説明していく。  
また、近年のメディアの変化、対応など技術的に説明。

回	授業計画及び学習内容
1	セーフティエリア / フレームレート
2	インターレース / フリッカー
3	ドロップフレームタイムコード
4	カラーバーの仕組み
5	キーイングの種類
6	色の属性
7	ベクトルデータとビットマップ
8	画面サイズとピクセル縦横比 / HDの種類
9	HDTVの基礎知識
10	SDTVとHDTVの違い
11	映像表現のガイドライン
12	文字テロップのデザイン1 テロップ 情報デザイン基本
13	文字テロップのデザイン2 フォント 文字詰め レイアウト
14	文字テロップのデザイン3 人名字取り スタッフロール
15	文字テロップのデザイン4 文字効果_エッジ,シャドウ,エンボス,ザブトン
16	前期期末試験対策
17	前期期末試験解説
18	前期総括
19	コピー制御
20	企画書 香盤表
21	収録フォーマット
22	アップコンバート
23	ダウンコンバート
24	カメラワーク
25	カメラアングル
26	構図の重要性
27	著作権表示
28	クレジット&キューシート
29	3D映像の原理
30	3D映像の方式
31	3D映像のメガネの種類とフォーマット
32	サブリミナル効果
33	国内放送基準
34	後期期末試験対策
35	後期期末試験解説
36	後期総括

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。筆記試験の点数及び提出物の内容で評価する。  
成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。  
S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

制作実習で扱っている映像がどのようなものか？よりよくする為にはどうしたら良いか？テロップの取り扱いなども講義する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 放送芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	放送技術Ⅱ	小谷 忠典	2単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

物語性を持った映像作品を少人数で製作する。企画、シナリオ、演出、撮影、編集までの行程を学習することで映像制作についての総合的な技術を高める。

**【講義概要】**

「違和感を持った人物の映像化」をテーマに、日常の中で遭遇した他者の違和感を軸に、他者への偏見、固定概念を解き放ち、自由な表現力を深める。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	企画作成①
3	企画作成②
4	企画作成③
5	企画作成④
6	企画発表①
7	企画発表②
8	グループ編成
9	撮影実習①
10	撮影実習②
11	撮影実習③
12	撮影実習④
13	撮影実習⑤
14	撮影実習⑥
15	撮影実習⑦
16	撮影実習⑧
17	撮影実習⑨
18	撮影実習⑩
19	撮影実習⑪
20	撮影実習⑫
21	撮影実習⑬
22	撮影実習⑭
23	撮影実習⑮
24	撮影実習⑯
25	撮影実習⑰
26	撮影実習⑱
27	編集実習①
28	編集実習②
29	編集実習③
30	編集実習④
31	編集実習⑤
32	編集実習⑥
33	編集実習⑦
34	編集実習⑧
35	編集実習⑨
36	作品プレビュー／講評

**【成績評価方法】**

講義全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲、また成果物としての作品から成績評価を行う。

成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。

S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

この授業では、「自学・自立・自由」を追求し、表現行為に伴った技術向上のための実践を行います。自ら学び、自らの力で立ち、自らを由とする。担当教員は、映画監督。マルセイユ国際映画祭、釜山国際映画祭など、これまで20か国以上の国際映画祭で作品が上映されている。武蔵野大学客員教授。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	制作実習 I	古川 農 相澤 一喜 鳥羽 浩平 秋元 孝夫 大健 敦 荻原 邦昭	6単位 216時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

番組制作の基礎を4つのセクションで学び、一連の映像制作の過程を経験する。そのことにより、映像制作の過程をそれぞれのセクションを通して理解を深め、自らで映像制作できることを目指す。

**【講義概要】**

番組はどのような過程で制作されるのか、番組に関わるスタッフはどんなスタッフがいるのか。将来、様々な番組制作に携わるため、番組制作の基礎を、制作・技術共に学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	授業ガイダンス
2	ロケ撮影 基礎実習①
3	ロケ撮影 基礎実習②
4	ロケ撮影 基礎実習③
5	ロケ撮影 基礎実習④
6	中継実習 準備
7	中継実習 本番
8	インタビュー実習 準備①
9	インタビュー実習 準備②
10	インタビュー実習 テスト撮影
11	インタビュー実習 撮影①
12	インタビュー実習 撮影②
13	インタビュー実習 編集①
14	インタビュー実習 編集②／プレビュー
15	ドラマ実習 ドラマ基礎実習
16	ドラマ実習 準備①
17	ドラマ実習 準備②
18	ドラマ実習 準備③
19	ドラマ実習 テスト撮影②
20	ドラマ実習 テスト撮影③
21	ドラマ実習 撮影①
22	ドラマ実習 撮影②
23	ドラマ実習 撮影③
24	ドラマ実習 編集①
25	ドラマ実習 編集②
26	ドラマ実習 編集③／プレビュー
27	スタジオ収録 基礎実習①
28	スタジオ収録 基礎実習②
29	スタジオ収録 基礎実習③
30	スタジオ収録 基礎実習④
31	スタジオ収録実習 企画／準備①
32	スタジオ収録実習 準備②
33	スタジオ収録実習 準備③
34	スタジオ収録実習 RH①
35	スタジオ収録実習 RH②
36	スタジオ収録実習 本番

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。レポート、授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

授業形式は実習を基本とし、基礎とある授業では、4つのセクション(演出・制作、撮影、照明、音声)に分かれ全てのセクションを順番に学修する。インタビューやドラマなどはそれぞれの制作を一連の流れで学習していく。担当教員は各セクションを次のように担当する。演出・制作…鳥羽 浩平、相澤 一喜 撮影…荻原 邦昭、古川 農 照明…大健 敦 音声…秋元 孝夫/現役フリーランスエンジニア、ライブ/コンサート収録、PA、スタジオ録音等をこなす。職務経歴30年以上の経験で、業界で必要な知識と理論を伝える。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	演出 I	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

近代芸術の最後尾に位置する映像芸術・映像エンターテインメント。それらにおける至上目的である「面白さ」とは、いかなる価値なのか？「面白さ」はいかなる時に、いかなる条件において発生するのか？この授業では1年間を通して、映像制作における「企画立案～演出」という過程を体験することを通じ、「面白さ」を目的とした作品作りの基礎を理解・体得することを目標とする。

#### 【講義概要】

前期は、映像によるフィクション作品(劇映画・ドラマ)の制作過程において、その全過程の指針となるべき「企画性＝アイデア」の重要性と、その具体化作業としての「演出」の基礎とを学ぶ。本授業では主な課題として、月曜実習短編ドラマ撮影用の企画・脚本の作成が課される。

回	授業計画及び学習内容
1	【授業ガイダンス】映像制作過程(プリプロ・撮影現場・ポストプロ)における「企画作成」と「演出」について
2	メタ価値としての「面白さ」について。参考上映作品(映画)の「企画性＝アイデア」分析を通じて考察
3	【グループ学習】各自がこれまでに会ったもっとも面白い映画作品について、その企画性を分析・プレゼン1
4	【グループ学習】各自がこれまでに会ったもっとも面白い映画作品について、その企画性を分析・プレゼン2
5	【企画の基礎1】制作条件を逆手に取る方法。月曜実習短編ドラマ撮影用「企画課題」の解説
6	短編ドラマ撮影用企画プレゼン1
7	短編ドラマ撮影用企画プレゼン2
8	短編ドラマ撮影用企画プレゼン3
9	短編ドラマ撮影用企画プレゼン4
10	短編ドラマ撮影用企画、個別指導1
11	短編ドラマ撮影用企画、個別指導2
12	短編ドラマ撮影用企画、個別指導3
13	短編ドラマ撮影用企画、個別指導4
14	短編ドラマ撮影用企画、個別指導5
15	短編ドラマ撮影用企画、個別指導6
16	【脚本の基礎】劇映画・ドラマ脚本の書式(柱・ト書き・科白)～フィクションにおける勇気＝反自然主義について～
17	【演出の基礎1】段取り決め＝役者の立ち位置と動線。短編ドラマ撮影用企画、選定結果発表
18	小論文テスト対策～自分の意図を言語化する際に陥ってはいけない傾向について～
19	【前期末テスト】小論文
20	小論文テスト解説
21	【演出の基礎2】演出効果とは？その事例1(望遠/広角レンズ解説)
22	【撮影実習】～めまいショットを撮影する～①
23	【撮影実習】～めまいショットを撮影する～②
24	【演出の基礎3】第四の壁について。撮影実習成果の検討
25	【企画性と演出の関係について1】二種類のクライマックス。参考上映(ドラマ)
26	【企画性と演出の関係について2】四象限図式による発想法。参考上映(ドラマ)
27	【演出の基礎4】演出効果とは？その事例2(アイキャッチ) 参考上映(ドラマ)
28	【演出の基礎5】演出効果とは？発展編(非効果的効果＝フェティシズムについて) 参考上映(ドラマ)
29	【企画の基礎2】TVドキュメンタリーの現場における企画開発。卒業制作実習用「取材もの企画」解説・班分け
30	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン1
31	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン2
32	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン3
33	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン4
34	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン5
35	【グループ学習】取材もの企画開発・プレゼン6
36	年間授業テーマ総括

#### 【成績評価方法】

レポート課題1・2(各15点)。短編ドラマ企画書(20点)。短編ドラマ脚本(20点)。前期末テスト(30点)の総計100点満点で採点する。授業への参加意欲・セッティング・片付けへの貢献を総計10点程度、プラスアルファの加点要素として考慮する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネスソフト	鎌倉 規匠	2単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

ワード・エクセル・パワーポイントに重点を置き、学科及び卒業後も必要とされる事務及び制作に欠かせない作業を踏まえての基本操作の習得を目的とする。

#### 【講義概要】

座学が基本。教科書に沿って説明し、その他必要な操作は課題等で補いながらワード・エクセル・パワーポイントに於ける基本操作を習得する。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	キーボード操作
3	ブラインドタッチ・タイピング
4	Word基本操作・保存
5	文字入力と和文・英文・基本的なショートカットキーの利用
6	特殊文字・フォントについて・ページレイアウト
7	ビジネス文書の形式・マナー・記以上文・時節・あいさつ文
8	ビジネス文書制作 表の挿入・削除・結合その他、装飾
9	区切り・セクション区切りの利用・縦書き・テキストボックス利用
10	ワードアート・図形の挿入・ドロップキャップの利用
11	チラシ制作課題
12	復習課題①
13	Excelの概要・基本操作①文字・数値入力
14	基本操作②オートフィルブックとシート
15	表の作成入力
16	関数①
17	関数②
18	フィルター・RANK・検索・置換
19	行・列の挿入・削除表示非表示
20	表データを利用したグラフ作成・グラフ概要説明・データの追加
21	グラフ要素の追加・レイアウト・グラフ・スタイルの変更・移動。スパークライン
22	復習課題②
23	パワーポイント概要説明
24	スライド制作・テーマ
25	ワードアート・画像・音楽挿入
26	アニメーション・画像切り替え
27	スライドショーとは？ヘッダーフッター・リハーサル・保存方法
28	パワーポイント動画作成①
29	パワーポイント動画作成②
30	パワーポイント動画作成③
31	パワーポイント動画作成④
32	パワーポイント動画発表①
33	パワーポイント動画発表②
34	パワーポイント動画発表③
35	パワーポイント動画発表④
36	年間授業総括

#### 【成績評価方法】

成績は、課題、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。授業全体を100点満点として採点する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

座学を基本とし、課題などを通して積極的にPCにおける苦手意識を実践でも活かすことの出来るスキルに変える。MOS資格を保持。座学ではあるが、一方的にならないよう、生徒とのコミュニケーションを計りながら、個々の疑問点を一緒に解決出来るように。更には生徒同士でお互いに伸ばし合えるような全員総ブラッシュアップをモットーとしている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	照明	柳戸 勲	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

放送業界のスタッフの一員として照明および裏方(スタッフ)の心構え、良識ある人間性の確立を目指す。スタジオ、イベント等に於ける照明の理論や基礎知識を学び、業界人としての自覚を促す。

#### 【講義概要】

「学び」「考え」「行動」を最大のテーマとして捉え、社会性豊かな学生を育成する。スタッフとしてのチームプレー、チームワークの必要性を理解し作品制作の実務を修得する。

回	授業計画及び学習内容
1	照明とは？光について、色との違い
2	上演芸術の歴史について
3	劇場機構と照明設備について①
4	劇場機構と照明設備について②
5	劇場機構と照明設備について③
6	テレビスタジオの機構と設備について①
7	テレビスタジオの機構と設備について②
8	テレビスタジオの機構と設備について③
9	テレビ照明の特徴と技法、色温度
10	テレビ用語について
11	3点照明について
12	スタジオに於ける照明の仕事
13	ロケーションに於ける照明の仕事
14	照明機器、電球、フィルターについて
15	電気工学について① オームの法則、電力計算
16	電気工学について② 絶縁体について
17	光について① 照明工学、ルクス・カンデラ等
18	光について② 太陽光のスペクトル
19	前期末試験 傾向と対策
20	前期末試験 解説
21	TV用語の解説(配布資料あり)
22	舞台美術、演出、照明についての用語解説
23	安全対策について
24	事故防止につながる基礎
25	TVスタッフの役割について① P、D、ADの仕事と役割
26	TVスタッフの役割について② CA、L、AD、TK等の仕事と役割
27	CMグラフィティについて
28	TVの仕事、スタジオ・ロケーションにおけるドラマの照明
29	音楽番組の照明、中継、報道、CMの照明
30	スタジオにて照明実習① レバトンを使って三点照明をモニターを通して見る
31	スタジオにて照明実習② スタンドに灯体を乗せ、光の三原色・エフェクトライトを見る
32	ドラマにおけるアイライト(強調する明かり)の説明
33	色彩について 加法混色・減法混色について
34	後期末試験 傾向と対策
35	後期末試験 解説
36	評価と一年間のまとめ

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

「舞台TV照明」基礎編を中心とした講義形式を基本とする。経験と実績に基づいて作成した資料を配布し、説明。約4時間を使い、スタジオにて機材を使い照明実習。現役の、舞台(バレエ、オペラ、語り、シャンソン等)を中心としている照明家。体験を基に広くスタッフ養成への授業を展開する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	音響	秋元 孝夫	4単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

テレビ、放送、ポストプロダクション業界で必要な音声、音響に関する知識、理論を身につける。

**【講義概要】**

実際に聞こえる音(心理音響)～電気音響(アナログ信号)～デジタル分野、無線電波まで音に関する基礎的な知識を広く学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	音について
3	音の三要素
4	音波、波長、波形
5	音の聞こえ方、感じ方、人の聴覚特性
6	音声信号＝電気信号
7	バランス回路、伝送、位相について
8	電気を音にする、スピーカーのしくみ
9	スピーカーシステム
10	音を電気に変える、マイクの特性、種類、用途
11	ダイナミックマイクの仕組み、特性、用途
12	コンデンサマイクのしくみ、特性、用途
13	音の大きさ、デシベル、
14	マイクレベル、ラインレベル、スピーカーレベル
15	PAシステムについて
16	増幅回路、各種アンプ、その必要性
17	前期末試験 傾向と対策
18	前期末試験 解説
19	前期総括/講評
20	インピーダンス
21	インピーダンスの整合
22	音声分配、分岐システム、ADA、スプリッタ
23	中継、収録システム
24	スタジオマルチトラック録音
25	ダイナミクスエフェクトについて、コンプ、リミッタ、ゲート、エキスパンダ
26	サラウンドシステム
27	デジタルオーディオ
28	デジタルオーディオ伝送、記録
29	デジタルオーディオデータ、ファイル
30	FPU/ワイヤレスシステム
31	同期、シンクロナイゼーション
32	MAについて
33	MAの概念と作業の進め方
34	後期末試験 傾向と対策
35	後期末試験 解説
36	後期総括/講評

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

基本的に講義形式、第一録音スタジオ等にて一部実演あり。担当講師は現役フリーランスエンジニア、ライブ/コンサート収録、PA、スタジオ録音等をこなす。職務経歴30年以上の経験で、業界で必要な知識と理論を伝える。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	放送技術 I	青沼 俊雄	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

①映像・音声・照明などの色々な電子・電気機器や、ケーブル・コネクタ・電池などの機材に携わる(設置・接続・操作)場合の機器に対するアレルギー的な感覚をできるだけ排除し、違和感なく対応(其々の機器が最善な状態を維持し、少々のトラブルが発生しても、すみやかに対応)できるように、つまりメカトロニクスに強いソフトエンジニアになれるよう、電気の基本的な知識が身に付くことを目標とする。

②特に強電(電力系)は電気の基礎が出来ていないと、非常に危険(感電・漏電・加熱・火災)を伴うので、これらも認識出来るようにしたい。

#### 【講義概要】

①前期は、電気ので、から始まり、電圧・電流・抵抗・直流・交流・オームの法則・交流と磁気作用・フレミングの法則・位相・リアクタンス・インピーダンス・フィルタといった基礎的な内容を行う。応用分野は時代に応じて進化していくが、それらの土台となっているのが電気の基礎なので、大事である。

②電気は目に見えないので分かり難い、よってできるだけ色々な教材を持ち込み、具体的に如何に分かり易く説明するか、を常に考えながら進めたい。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	電気とは何か① 電気の発見、電気の正体
3	電気とは何か② 電圧・電流・抵抗・導体と不導体
4	電気回路の基礎① 直流と交流
5	電気回路の基礎② 最も簡単な電気回路、オームの法則
6	電気回路の基礎③ 抵抗の直・並列接続、分圧と分流
7	電気回路の基礎④ 電力
8	交流と磁気作用① 電気と磁気、フレミングの法則
9	交流と磁気作用② スピーカとマイクロホン、トランス
10	電子部品の基礎 抵抗、コンデンサ、コイル
11	交流回路における L・C・R の電氣的性質① 位相
12	交流回路における L・C・R の電氣的性質① リアクタンス、インピーダンス
13	LCR フィルタ① LPF、HPF、BPF
14	LCR フィルタ② フィルタの応用例
15	共振回路 直列・並列共振回路、同調回路
16	前期末テスト 傾向と対策
17	前期末テスト 答案返却解説
18	前期総括/講評
19	電源回路① 最も簡単な電源回路
20	電源回路② 安定化電源(レギュレータ)回路
21	半導体の基礎① ダイオード
22	半導体の基礎② トランジスタと増幅の概念
23	増幅器① 増幅器の基本
24	増幅器② OPアンプを含めた応用の一例
25	増幅器③ デンベルについて
26	発振回路① 発振動作(発振現象・発振条件)
27	発振回路② 発振回路の種類
28	機器間の接続① 電源と負荷
29	機器間の接続② インピーダンス整合
30	電波① 電波の発生、電波の伝わり方
31	電波② AM・FM・PCM・デジタル変調
32	地上デジタルテレビジョン放送の伝送方式
33	テレビ放送回線の伝送システムの概要
34	後期末テスト 傾向と対策
35	後期末テスト 答案返却解説 & 不合格者対応
36	後期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席、授業態度、定期試験により総合的に判断し、担任に報告。定期試験での点数評価は非常に困難を感じるが、担任と検討しつつ判断する。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

毎回プリントを配布し、プリントには所々多数空白があり其れを埋めさせ、解答・説明を行う。担当教員は、ラジオ・テレビジョン受信機・レーダー・無線機器などの修理技術、学校放送設備の設置工事などの実務経験あり。また、学士・職業訓練指導員免許・高等学校教諭免許・家庭電気一級修理技士・電気工事士などの資格有り。音響映像系の過去担当学科はテレビ技術科・放送技術科・テレビ放送工学科・音響工学科を担当。本人の専門は、電気の基礎・電子回路・音響機器・室内音響・無線通信工学・計測技術。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタル画像 I	小泉 みのり	4単位 144時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

パソコンを使って、主にAdobe社ソフト(Photoshop・AfterEffects)を使いコンピューターグラフィックの基礎を学んでいく。ゼロから作るCGから写真画像を操作して作るCGまで学んでいく。初めは静止画からはいり、合成ムービーまで制作する。

#### 【講義概要】

映像サイズ、合成、編集など 制作実習と関連。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre)
3	Photoshop基本操作① ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
4	Photoshop ファイル操作と拡張子・複数ファイルの扱い・選択範囲 制作の流れ
5	Photoshop写真加工 トリミング・修復ブラシ・コピースタンプ・特定の色の色調補正・フィルター
6	Photoshop写真合成① レイヤー・切抜き
7	Photoshop写真合成② パペットワーブ・レイヤーマスク
8	Photoshopロゴマーク作り レイヤースタイル・クリッピングマスク・グラデーション
9	Photoshopポストカード作り① 画像操作・文字・スマートオブジェクト・描画モード・変形
10	Photoshopポストカード作り② シェイプで地図作成・調整レイヤー色 RGBとCMYKの違い
11	Photoshop中間制作 CD/DVDジャケット制作
12	AE基本① ロボットを動かそう① トランスフォーム(アンカーポイント・位置・回転・スケール・不透明度)・キーフレーム・リンク
13	AE基本② ロボットを動かそう② エフェクト・レンダリング
14	Photoshopロボット制作① レイヤースタイル
15	Photoshopロボット制作② オリジナルキャラクター制作
16	AE期末制作 オリジナルキャラクターを動かそう①
17	AE期末制作 オリジナルキャラクターを動かそう②
18	前期総括/講評
19	Photoshop パスの描き方・ファイルパス・タイトル・音付け
20	Photoshop クイックマスクとレイヤーマスク
21	Photoshop ツールレッスン(レッタチ)
22	Photoshop ツールレッスン(ブラシの定義・パターンの定義)
23	Photoshop グラデーションマップ・版ずれ効果
24	Photoshop スニーカーデザイン 透明をロック・レイヤーマスク
25	中間制作 Photoshop スニーカーデザイン①
26	中間制作 Photoshop スニーカーデザイン②
27	Photoshop 汗と涙の作成
28	Photoshop レイヤーマスク(応用1)
29	Photoshop レイヤーマスク(応用2)
30	Photoshop 昼の画像を夕方にする
31	Photoshop ブラシのカスタマイズ
32	雨・雪の作成 オブジェクト発光 トラックマット
33	期末制作 課題制作①
34	期末制作 課題制作②
35	期末制作 課題制作③
36	後期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。中間・期末制作の提出・完成度/授業の理解度によって評価。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

PC実習が基本。静止画加工、合成、動画編集までステップを踏み幅広く知識をつけていく。担当教員は、CM、PV、イベント、テレビ、アニメ、映画祭のOPCG等、数々の作品でマルチに活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ノンリニア編集	小泉 みのり	4単位 144時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

主にAdobe社ソフト(Premiereを使って)ノンリニア編集の基本から様々な編集と書き出しまで1人で操作出来ることを目的とし、コンピュータグラフィックスの可能性を知ってもらう。  
また、映像表現について十分理解することを達成目標とする。

#### 【講義概要】

映像サイズ、合成、編集など 制作実習と関連。  
指定の提出(中間制作・期末制作)により、内容の理解度を確認するので必ず提出すること。

回	授業計画及び学習内容
1	講義概要・予定説明
2	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre)
3	Premiere 基本操作①ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
4	Premiere 編集の準備・制作の流れ①読み込み・編集・書き出し
5	Premiere 編集の準備・制作の流れ②タイトル・音付け・エンドロール
6	Premiere 操作画面と編集の基本(プロジェクトの作成/シーケンスの作成) クリップの編集
7	Premiere イメージムービー作成①トリミング・ツール・色彩表現
8	Premiere イメージムービー作成②サブクリップ・インサート・上書き・マーカー・トランジション
9	Premiere 同期・マルチカメラ編集
10	Premiere ピクチャーインピクチャー・文字入力
11	Premiere 中間制作①
12	Premiere 中間制作②
13	Premiere 文字入力～テキストに枠を付ける～ トランジションの設定カスタマイズ
14	Premiere マスク&トラック機能 エンドロール①
15	Premiere 映画の予告編(30秒)
16	期末制作① Premiere映画の予告編(15秒)
17	期末制作② Premiere映画の予告編(15秒)
18	前期総括/講評
19	Premiere Psd素材の読み込み・ファイルパス・SE
20	Premiere 色調補正・モノクロ・特定色の調整・ホワイトバランス エンドロール②
21	Premiere タイトルのカスタマイズ・ロール・クロール・レガシータイトル・書き出し
22	Premiere BGMの調整・画面転換の特殊効果
23	Premiere ぼかし処理(トラッキング)・手振れ補正
24	AfterEffects 基本①ワークフロー・画面構成・環境設定・プレビュー
25	中間制作(季節のムービー)①
26	中間制作(季節のムービー)②
27	Premiere グリーンバック合成①AfterEffects テキストアニメーションの作成
28	Premiere グリーンバック合成②AfterEffects シェイプ・マスクを利用したアニメーションの作成
29	Premiere ストップモーションと文字入力AfterEffects レイヤー・エフェクトを活用する
30	Premiere フォーマットに書き出し
31	Premiere 曲に合わせた編集
32	期末制作 課題制作①
33	期末制作 課題制作②
34	期末制作 自由制作①
35	期末制作 自由制作②
36	前期総括/講評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。中間・期末制作の提出・完成度/授業の理解度によって評価。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

PC実習が基本。静止画加工、合成、動画編集までステップを踏み幅広く知識をつけていく。担当教員は、CM、PV、イベント、テレビ、アニメ、映画祭のOPCG等、数々の作品でマルチに活躍。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	映像技法	小谷 忠典	2単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

物語性を持った映像作品を少人数で製作する。企画、シナリオ、演出、撮影、編集までの行程を学習することで映像制作についての総合的な技法を高める。

**【講義概要】**

「印象的な記憶の映像化」をテーマに、かけがえのない〈私〉の記憶の映像化を、はじめての撮影実習として各自が試みる。また相互の協働を通じて利他を知り、自己の客観視を目指す。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	企画作成①
3	企画作成②
4	企画作成③
5	企画作成④
6	企画発表①
7	企画発表②
8	グループ編成
9	撮影実習①
10	撮影実習②
11	撮影実習③
12	撮影実習④
13	撮影実習⑤
14	撮影実習⑥
15	撮影実習⑦
16	撮影実習⑧
17	撮影実習⑨
18	撮影実習⑩
19	撮影実習⑪
20	撮影実習⑫
21	撮影実習⑬
22	撮影実習⑭
23	撮影実習⑮
24	撮影実習⑯
25	撮影実習⑰
26	撮影実習⑱
27	編集実習①
28	編集実習②
29	編集実習③
30	編集実習④
31	編集実習⑤
32	編集実習⑥
33	編集実習⑦
34	編集実習⑧
35	編集実習⑨
36	作品プレビュー／講評

**【成績評価方法】**

講義全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲、また成果物としての作品から成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

この授業では、「自学・自立・自由」を追求し、表現行為に伴った技術向上のための実践を行います。自ら学び、自らの力で立ち、自らを由とする。担当教員は、映画監督。マルセイユ国際映画祭、釜山国際映画祭など、これまで20か国以上の国際映画祭で作品が上映されている。武蔵野大学客員教授。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	相澤 一喜	2単位 36時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

社会人としてのビジネススキルと一般教養を身につける事を目標とする。また、就職活動に向け、就職活動に必要な知識も身につけていく。

#### 【講義概要】

基本的に座学を基本とし、社会人として必要な知識やマナーを学ぶ。また、映像制作においてチームで働くことが多くなるため、チームで働いていくときのルールやマナーも学んでいく。  
チームワークを養うために実践的な内容も取り入れてゆく。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	一般常識テスト①
3	敬語の使い方①
4	敬語の使い方②
5	一般常識テスト②
6	メールの書き方
7	電話の掛け方
8	一般常識テスト③
9	組織に必要なルールとマナー①
10	組織に必要なルールとマナー②
11	一般常識テスト④
12	チームで働くとは①
13	チームで働くとは②
14	一般常識テスト⑤
15	チームワークを養う I ①
16	チームワークを養う I ②
17	映像業界における就職活動①
18	映像業界における就職活動②
19	一般常識テスト⑥
20	就職ガイダンス①
21	就職ガイダンス②
22	就職ガイダンス③
23	就職ガイダンス④
24	一般常識テスト⑦
25	履歴書の書き方①
26	履歴書の書き方②
27	一般常識テスト⑧
28	履歴書の書き方③
29	履歴書の書き方④
30	一般常識テスト⑨
31	次年度に向けて① 先輩としての心構え
32	次年度に向けて② 後輩とのチーム作り
33	校内企業説明会①
34	校内企業説明会②
35	校内企業説明会③
36	総評

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%以上を満たさない学生には科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業形式は講義を基本とする。担当教員は、アシスタントディレクター、Web送出オペレーター、編集オペレーターなどの実務経験があり、その経験を活かし社会人としての基礎を教えていく。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	古川 農	2単位 36時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

就職指導及び社会人としてのビジネススキルと一般教養を身につける事を目標とする。

**【講義概要】**

一般常識テスト、SPIテスト、グループワーク、個人面談、就職指導、業界理解、情報共有など。

回	授業計画及び学習内容
1	1年振り返り/2年ガイダンス
2	一般常識テスト①
3	就職活動の流れ確認/企業調査・業界研究/情報共有
4	就職用提出書類について/企業調査・業界研究/情報共有
5	エントリーシートの書き方/企業調査・業界研究/情報共有
6	SPIテスト①
7	自己PRシートの書き方/企業調査・業界研究/情報共有
8	就職試験(面接)でのポイント・ルール①/企業調査・業界研究/情報共有
9	就職試験(面接)でのポイント・ルール②/企業調査・業界研究/情報共有
10	一般常識テスト②
11	企業調査・業界研究/情報共有/個人面談
12	企業調査・業界研究/情報共有/個人面談
13	就職活動報告・提出書類について/情報共有/個人面談
14	SPIテスト②
15	情報共有/グループワーク
16	情報共有/グループワーク
17	情報共有/グループワーク
18	一般常識テスト③
19	テクノス祭準備/情報共有
20	テクノス祭準備/情報共有
21	テクノス祭準備/情報共有
22	SPIテスト③
23	情報共有/個人面談
24	情報共有/個人面談
25	情報共有/個人面談
26	一般常識テスト④
27	情報共有/グループワーク
28	情報共有/グループワーク
29	情報共有/グループワーク
30	テクノス展準備/情報共有
31	テクノス展準備/情報共有
32	テクノス展準備/情報共有
33	テクノス展準備/情報共有
34	テクノス展準備/情報共有
35	テクノス展準備/情報共有
36	テクノス展準備/情報共有

**【成績評価方法】**

授業全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲・姿勢、出席率、それぞれ換算し合計点数で成績評価を行う。成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

基本講義形式とし、学校行事などの時期により、学生によるミーティングも行う。

担当教員は放送芸術科の専任教員。

映像制作会社で撮影技術スタッフを経験後、フリーのカメラマンとして活動しながら、本校で講師としても活動していた。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	制作実習Ⅱ	荻原 邦昭 小谷 忠典 古川 農 相澤 一喜	15単位 540時間

### 【授業の到達目標及びテーマ】

1年次に学んだ映像制作の基礎を生かし、企画～撮影～編集～納品という制作の一連の流れを学生主動で行う。

他学科・地域・企業・自治体への取材や撮影を積極的に実習に取り入れ、作品制作を行う事で主体性・コミュニケーション能力・知識・技術を身に付ける。また、作品を外部へ発信することで、責任感を与え、質の高い作品制作を行う事を目標とする。

### 【講義概要】

前期は近隣地域への取材を行い、ドキュメンタリー作品を制作する。

後期はジャンルを問わず、複数の作品を制作する。

演出・制作・撮影・音声・照明・編集などの希望職種に分かれ、企画～撮影～編集～納品を4月～9月(前期)

10月～2月(後期)までのスケジュールで行う。

回	授業計画及び学習内容	
1	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材①
2	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材②
3	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材③
4	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材④
5	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材⑤
6	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材⑥
7	【プロダクション】	撮影①
8	【プロダクション】	撮影②
9	【プロダクション】	撮影③
10	【プロダクション】	撮影④
11	【プロダクション】	撮影⑤
12	【プロダクション】	撮影⑥
13	【ポストプロダクション】	編集①
14	【ポストプロダクション】	編集②
15	【ポストプロダクション】	編集③
16	【ポストプロダクション】	編集④(試写)
17	【ポストプロダクション】	編集⑤
18	【ポストプロダクション】	編集⑥(完パケ・納品)
19	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備①
20	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備②
21	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備③
22	【プリプロダクション】	企画開発/事前取材・準備④
23	【プロダクション】	撮影①
24	【プロダクション】	撮影②
25	【プロダクション】	撮影③
26	【プロダクション】	撮影④
27	【プロダクション】	撮影⑤
28	【プロダクション】	撮影⑥
29	【プロダクション】	撮影⑦
30	【プロダクション】	撮影⑧
31	【プロダクション】【ポストプロダクション】	撮影⑨/編集①
32	【プロダクション】【ポストプロダクション】	撮影⑩/編集②
33	【ポストプロダクション】	編集③
34	【ポストプロダクション】	編集④(試写)
35	【ポストプロダクション】	編集⑤
36	【ポストプロダクション】	編集⑥(完パケ・納品)

### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。出席率及び作品の完成度、スタッフとしての主体性、協調性などを換算し合計点数で成績評価を行う。

成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。

S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

通年で複数の映像作品制作を実践的に行い、映像スタッフとして必要なスキルを身に付ける。スケジュールは、内容・進行状況により変動する事がある。講師・教員のバックアップの元行う、学生の主体的な学びを特徴とする。担当教員は各セッションを次のように担当する。

演出・制作…小谷 忠典(講師/映画監督) 相澤 一喜(教員) 技術…荻原 邦昭(講師/撮影技師) 古川 農(教員)

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	演出Ⅱ	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

映像作品の創作・制作活動は、個人の営みである以上に集団制作であるという傾向があり、とりわけ商業映像の現場においてはその傾向は必須の条件である。そして、そこにおける「創造性」は一部の企画者やディレクターだけが担うものではなく、現場スタッフ全てが関与すべきものである。自分が携わる映像作品に「創造的」に関わることが出来ないスタッフは、居場所を失うことになってしまうだろう。この授業では「創造的」であることは如何にして可能なのか？をテーマとし、映像作品制作に「創造的」に関わる方法の理解・体得を通年の目標とする。

#### 【講義概要】

「企画制作」の授業と連動して行う。

映像によるフィクション作品（劇映画・ドラマ）を主な具体例とし、映像制作過程の指針である「演出」についての概論を学ぶ。前期は課題として、卒業制作実習用の企画開発・脚本・構成の作成を課する。後期は課題として、通年授業の習得度を研究発表の形でプレゼンテーションすることを課する。

回	授業計画及び学習内容
1	【映像メディア論】映像業界を志すに当たって知っておくべきこと（放送法）
2	【映像メディア論】映像業界を志すに当たって知っておくべきこと（電波事業）
3	【企画性と演出を結びつける方法】モチーフについて1（脚本からモチーフを抽出する）
4	【企画性と演出を結びつける方法】モチーフについて2（モチーフを生かした演出・撮影）
5	【演出の基礎・中級編1】演劇的な会話劇・会話シーンを、映像的に面白く撮影する工夫
6	【演出の基礎・中級編2】撮影技法としてのイマジナリーラインを演出に生かす方法
7	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
8	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
9	【個別指導】ドラマ企画過去作品の参考上映、解説
10	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
11	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
12	【個別指導】スタジオ撮影企画もの過去作品の参考上映、解説
13	【演出の基礎・中級編3】良い演技を引き出す方法（「やりやすさ」と「優れた」演技の違いについて）。
14	【演出の基礎・中級編4】演出との関係における撮影・照明・録音の工夫
15	【演出の基礎・中級編5】パンショットとドリーショットの選択（技術スタッフのシャドーワーク）
16	【撮影実習】～ワンシーン＝ワンカット撮影～
17	【脚本と演出の関係1】「優れた脚本の四条件」。撮影実習成果の検討
18	【脚本と演出の関係2】演出プランを構築する方法1（ハリウッドメソッド）
19	【脚本と演出の関係3】演出プランを構築する方法2（グレマスの行為項モデル）
20	【脚本と演出の関係4】演出プランを構築する方法3（二つのプロットライン）
21	【グループ学習】A班研究発表
22	【グループ学習】A班研究発表
23	【グループ学習】A班研究発表
24	【グループ学習】B班研究発表
25	【グループ学習】B班研究発表
26	【グループ学習】A班研究発表
27	【グループ学習】A班研究発表
28	【グループ学習】B班研究発表
29	【グループ学習】B班研究発表
30	【グループ学習】C班研究発表
31	【グループ学習】C班研究発表
32	【グループ学習】D班研究発表
33	【グループ学習】D班研究発表
34	【グループ学習】E班研究発表
35	【グループ学習】E班研究発表
36	【企画と演出・実践編】MCU等々、映像フィクションの最前線が直面している問題意識を共有する

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。授業内レポート、ドラマ脚本または企画もの構成、授業への参加意欲を換算し、100点満点で採点する。（前期）授業内レポート、研究発表、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。（後期）成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	企画制作	合田 典彦	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

映像作品の創作・制作活動は、個人の営みである以上に集団制作であるという傾向があり、とりわけ商業映像の現場においてはその傾向は必須の条件である。そして、そこにおける「創造性」は一部の企画者やディレクターだけが担うものではなく、現場スタッフ全てが関与すべきものである。自分が携わる映像作品に「創造的」に関わることが出来ないスタッフは、居場所を失うことになってしまうだろう。この授業では「創造的」であることは如何にして可能なのか？をテーマとし、映像作品制作に「創造的」に関わる方法の理解・体得を通年の目標とする。

#### 【講義概要】

「演出Ⅱ」の授業と連動して行う。

映像によるフィクション作品（劇映画・ドラマ）を主な具体例とし、映像制作過程の指針である「企画開発」についての概論を学ぶ。前期は課題として、卒業制作実習用の企画開発・脚本・構成の作成を課する。後期は課題として、通年授業の習得度を研究発表の形でプレゼンテーションすることを課する。

回	授業計画及び学習内容
1	【授業ガイダンス】 年間授業テーマの解説。卒業制作実習用「取材もの企画」準備
2	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
3	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
4	【企画の基礎・中級編】 テーマと世界観について
5	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発1（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
6	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発2（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
7	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発3（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
8	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発4（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
9	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発5（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
10	【グループ学習】 後期卒業制作実習用、企画開発6（ドラマ。スタジオ撮影企画もの）
11	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
12	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
13	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
14	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
15	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
16	【個別指導】 ドラマ企画、脚本指導
17	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
18	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
19	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
20	【個別指導】 スタジオ撮影企画もの、構成指導
21	【グループ学習】 A班研究発表
22	【グループ学習】 A班研究発表
23	【グループ学習】 A班研究発表
24	【グループ学習】 B班研究発表
25	【グループ学習】 B班研究発表
26	【グループ学習】 A班研究発表
27	【グループ学習】 A班研究発表
28	【グループ学習】 B班研究発表
29	【グループ学習】 B班研究発表
30	【グループ学習】 C班研究発表
31	【グループ学習】 C班研究発表
32	【グループ学習】 D班研究発表
33	【グループ学習】 D班研究発表
34	【グループ学習】 E班研究発表
35	【グループ学習】 E班研究発表
36	【企画と演出・実践編】 MCU等々、映像フィクションの最前線が直面している問題意識を共有する

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。企画書第1稿、企画書第2稿、ドラマ脚本または企画もの構成、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。（前期）授業内レポート、研究発表、授業への参加意欲を換算し、総計100点満点で採点する。（後期）成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

1年間を通じて、講義形式、グループ学習、体験型実習の3要素を授業の基本とする。担当講師は商業映画・テレビ番組の企画開発・構成・脚本、インディペンデント映画の演出・制作を通じて得た経験をもとに授業を行う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタル画像Ⅱ	小泉 みのり	4単位 72時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

テレビ制作の基礎知識、全般。デジタル放送の移り変わりから、利点 問題点などを理解していく。技術的な事から デザインをするためのツールの特徴を理解させていく。テレビ用の画面デザインをする際に必要と思われる知識や項目を パソコンでの対応方法とともに説明していく。また、近年メディアの多様化、移り変わりへの対応策など考案できる人材を育てる。

#### 【講義概要】

テレビ放送の基礎知識から入り、文字テロップのデザイン 色のことや 地上デジタル放送への移行。撮影基礎知識から3D映像の原理など 順をおって説明していく。  
また、近年のメディアの変化、対応など技術的に説明。

回	授業計画及び学習内容
1	セーフティエリア / フレームレート
2	インターレース / フリッカー
3	ドロップフレームタイムコード
4	カラーバーの仕組み
5	キーイングの種類
6	色の属性
7	ベクトルデータとビットマップ
8	画面サイズとピクセル縦横比 / HDの種類
9	HDTVの基礎知識
10	SDTVとHDTVの違い
11	映像表現のガイドライン
12	文字テロップのデザイン1 テロップ 情報デザイン基本
13	文字テロップのデザイン2 フォント 文字詰め レイアウト
14	文字テロップのデザイン3 人名字取り スタッフロール
15	文字テロップのデザイン4 文字効果_エッジ,シャドウ,エンボス,ザブトン
16	前期期末試験対策
17	前期期末試験解説
18	前期総括
19	コピー制御
20	企画書 香盤表
21	収録フォーマット
22	アップコンバート
23	ダウンコンバート
24	カメラワーク
25	カメラアングル
26	構図の重要性
27	著作権表示
28	クレジット&キューシート
29	3D映像の原理
30	3D映像の方式
31	3D映像のメガネの種類とフォーマット
32	サブリミナル効果
33	国内放送基準
34	後期期末試験対策
35	後期期末試験解説
36	後期総括

#### 【成績評価方法】

授業全体を100点満点として採点する。筆記試験の点数及び提出物の内容で評価する。  
成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。  
S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

制作実習で扱っている映像がどのようなものか？よりよくする為にはどうしたら良いか？テロップの取り扱いなども講義する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	放送芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	放送技術Ⅱ	小谷 忠典	2単位 72時間

**【授業の到達目標及びテーマ】**

物語性を持った映像作品を少人数で製作する。企画、シナリオ、演出、撮影、編集までの行程を学習することで映像制作についての総合的な技術を高める。

**【講義概要】**

「違和感を持った人物の映像化」をテーマに、日常の中で遭遇した他者の違和感を軸に、他者への偏見、固定概念を解き放ち、自由な表現力を深める。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	企画作成①
3	企画作成②
4	企画作成③
5	企画作成④
6	企画発表①
7	企画発表②
8	グループ編成
9	撮影実習①
10	撮影実習②
11	撮影実習③
12	撮影実習④
13	撮影実習⑤
14	撮影実習⑥
15	撮影実習⑦
16	撮影実習⑧
17	撮影実習⑨
18	撮影実習⑩
19	撮影実習⑪
20	撮影実習⑫
21	撮影実習⑬
22	撮影実習⑭
23	撮影実習⑮
24	撮影実習⑯
25	撮影実習⑰
26	撮影実習⑱
27	編集実習①
28	編集実習②
29	編集実習③
30	編集実習④
31	編集実習⑤
32	編集実習⑥
33	編集実習⑦
34	編集実習⑧
35	編集実習⑨
36	作品プレビュー／講評

**【成績評価方法】**

講義全体を100点満点として採点する。授業への参加・意欲、また成果物としての作品から成績評価を行う。  
成績が59点以下、または出席率が80%に満たない場合は、科目理解を目的とした補講を課す。  
S: 90～100点 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

この授業では、「自学・自立・自由」を追求し、表現行為に伴った技術向上のための実践を行います。自ら学び、自らの力で立ち、自らを由とする。担当教員は、映画監督。マルセイユ国際映画祭、釜山国際映画祭など、これまで20か国以上の国際映画祭で作品が上映されている。武蔵野大学客員教授。